

資料6

第4回大川村議会維持対策検討会議

大川村プロジェクト 生活支援の取り組み



大川村集落活動センター結いの里

平家平（へいけだいら）

「大川村集落活動センター結いの里」の概要【全体像】

(注) 内容には将来的な取り組みを含む

小さな拠点

人と人、集落と集落、村と外とのつながり「結い」の拠点

機能1

食の提供

学校給食 (大川小中学校)



保育園給食 (つぼみ保育園)



高齢者等配食 (デイサービスの食事含む)



食堂・喫茶 (観光客等)



憩いの場 (子ども、高齢者の交流等)

大川村集落活動センター 結いの里

活動拠点施設



村のえき (元つぼみ保育所)



村内各施設と連携

機能3

農産物・特産品等の販売

村内で生産された農林産品・特産物の販売

- ・土佐はちきん地鶏、大川黒牛 (生肉、加工品)
- ・地域の伝統的産品 (玉緑茶、かりんとう等)
- ・野生鳥獣加工品
- ・野菜、山菜、花卉、手芸品 等

食鳥処理・加工施設
(H29完成)

機能4

観光・交流の情報発信等

- ・山岳・ダム湖面等を活用した観光・交流の取り組みの情報発信、案内窓口
- ・大川村ファンづくり (SNS、インターンシップ等)
- ・移住支援 (空き家・耕作放棄地の把握、情報提供等)

大川村地産地消システム

集落活動センター

食材

米・野菜・肉等の計画的な栽培・加工

農家

農家

農家

農家

(株)むらびと本舗

機能2

生活物資の提供 (買い物支援)

商店・コンビニ的機能
(食料品、日用雑貨の販売)



生活用品・農産物等の配送・集荷



各家庭へ

農産物の集荷

商品の集荷

J A 地元商店

店舗への立ち寄り

集落を循環するバス

<運営主体 (運営組織)>

大川村集落活動センター結いの里運営協議会

<運営体制 (構成団体等)>

- ・地域住民 (部落自治会、青年団、農業集団、PTA等)
- ・一般社団法人大川村ふるさとむら公社
- ・株式会社むらびと本舗 ・大川村社会福祉協議会
- ・J A土佐れいほく大川支所 ・大川小中学校
- ・大川村森林組合 ・協同組合木星会 等

<運営事務局・サポート>

- ・一般社団法人大川村ふるさとむら公社
- ・地域おこし協力隊、集落支援員 等

村民や関係団体等が一体
となった村づくり

機能5

その他の生活支援

- ・高齢者の見守り、居場所づくり
- ・緊急時の送迎、よろず相談
- ・飲料水等供給施設 (水道等) の維持管理
- ・野生鳥獣防止対策 (防護柵の設置等) 等



「自然教育センター白滝」

大川村集落活動センター結いの里のさらなる充実

目指す姿 集落活動センターの活動の充実により、高齢者の暮らしを守り、若者が住み続けられる村の実現



目標

- 集落活動センターを活用した観光・交流の取り組みによる村内入込客の増加
- 飲食メニューの充実と特産物販売の拡大等による収益の拡大

今後の取り組み

【白滝の里】⇔【結いの里】⇔【早明浦ダム湖】
と繋がる軸を意識した取り組みを推進
＜結いの里を起点、結節点に＞



- 観光振興の取り組みと連動した集落活動センターの充実（センター・村への人流を創る）
 - ・ 早明浦ダム湖のウォータースポーツ、サイクリングイベント、登山等とタイアップした飲食・物販・休憩等、集落活動センターの活用（観光メニューの造成）
 - ・ センターを村の窓口機能として観光・交流情報の発信強化（SNSの活用等）

● 新たな飲食メニューの開発

- ・ 村をアピールする新たな飲食メニュー（大川村でしか食べられないメニュー等）の開発 →アドバイザーの派遣・活用

● 農作物、特産品等の販売の拡大

- ・ 村で収穫・加工した農作物、特産品等の販売の拡大（生産拡大、情報発信、PR強化等）

食鳥処理施設と連携



大川村集落活動センター結いの里



人流・物流の拠点

貨客混載



現状

学校給食等の提供 (H28.4～)

- ◆ 大川小中学校・つぼみ保育園給食の提供
- ◆ デイサービス給食の提供

H28給食数：14,012食
H28地産率：野菜 約35%
肉 約39%

飲食の実施 (H28.7～)

- ◆ はちきん地鶏や大川黒牛等を使った飲食等の提供

H28利用者：2,071人(物販含む)
H28売上額：約910千円

農作物等の販売 (H28.7～)

- ◆ 村内の農産物、加工品、手作り小物品等の販売

H28売上額：約1,120千円

課題

- 小中学校・保育園等への持続的な給食の提供（地産地消の拡大）
- 集落活動センターの持続に向けた活動の充実
 - ・ 誘客につながる飲食メニューの開発
 - ・ 集落活動センターのさらなる活用（観光の取り組みとのリンク）等

大川村集落活動センター結いの里における給配食事業の展開

給配食事業の効果

- 農家・地域住民の所得の向上
- 高齢者等の生きがいづくり
- 子どもの育成への村民の参加意識の醸成
- 地産地消の取り組みによる食育の普及促進
- 村民と学校とのつながり・交流の深まり
- 雇用の創出（調理員、栄養士等）等

学校給食等に
着実な効果

今後の取り組みの方向

- 食材の村内地産率の向上 → 食材（野菜等）提供について、住民への計画的な栽培を依頼
- 給食メニューの拡大 → 土佐はちきん地鶏等を使った新メニュー（食鳥処理施設とタイアップ）
- 給配食対象者の拡大 → 高齢者をはじめ、自宅で食事を必要とする住民への配食サービスの実施

村の将来を担う子どもたちの
ために村民一丸となった取り
組みを推進

- Point
- 地域全体で子どもを育てる
 - 村民の生きがいづくり
 - 村内で物を循環させる



大川村内の移動手段や買い物支援等の仕組みづくり〔貨客混載の推進〕

1 現状

移動手段

- ◆路線バス
 - ・土佐町～大川村～いの町（本川）1日3～5便
- ◆福祉バス（4台）
 - ・事前予約による運行
- ◆診療所送迎バス（10人乗り1台）
 - ・集落ごとに運行（週3回）
- ◆タクシー事業者
 - ・村内になし
- ◆スクールバス
 - ・行きは小中学校一緒に、帰りは別々に送迎

生活用品調達手段

- ◆商店・2店（JA1店、民間1店）
- ◆移動販売・2事業者（JA、未広（とくし丸））

2 課題

- ◆路線バスは幹線（県道17号）に限られており、各集落間が結ばれていない。
- ◆福祉バスの利用が限定的になっている。
- ◆新聞（朝刊）が昼頃に配達されるなど、物流の一部にハンディキャップがある。

3 対策の方向性

- ◆各集落間を結ぶ、より利便性の高い移動手段システムの構築
- ◆移動手段を活用した、物流のハンディキャップを緩和するための仕組みの構築（貨客混載）

4 展開する取組

第1ステップ

「ヒト」の移動方法の検討、構築

コミュニティバスの運営

住民、観光客の運送

「モノ」の運搬方法の検討

新聞の配達

配食サービス

第2ステップ

荷物の配達・集荷

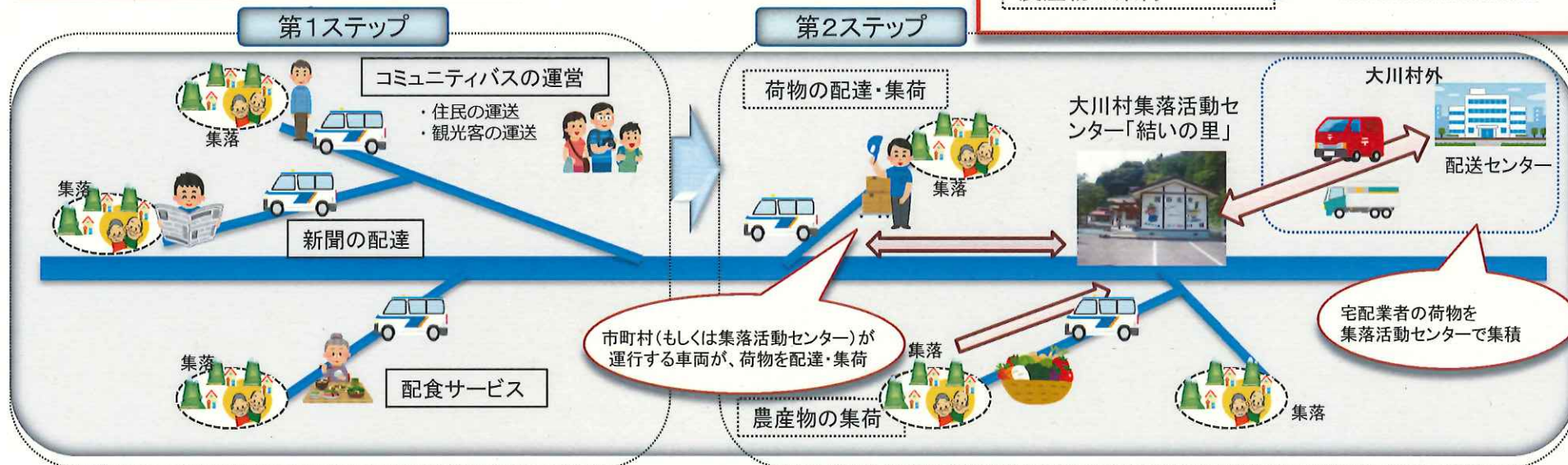
農産物の集荷

「貨客混載推進検討会」による検討

【検討メンバー候補】
大川村、集落活動センター、
貨物事業者、県 等

【要検討】
コミュニティバスの実施主体
・市町村運営有償運送
・公共交通空白地有償運送

大川村での人流・物流サービスのイメージ(案)



- ・最初に「ヒト」を運搬するため、村内の各集落を結ぶコミュニティバス（村民バス）のしくみを検討・構築
- ・コミュニティバスを活用しての、新たな新聞配達のしくみや配食サービスを検討

- ・宅配業者の荷物を集落活動センターを拠点として、コミュニティバス等を利用して荷物を配達・集荷するしくみの検討
- ・各戸の農産物を集荷するしくみの検討